

向日葵

ひ ま わ り

第34号

令和4年9月1日発行

発行所
三条市農業委員会



下田地区の農家・蝶名林孝夫さんは、鹿峠地区の畑でブルーベリーを栽培されています。

最初は、息子さんが買ってきたブルーベリーの鉢植えを見て興味を覚え、通信教育などで栽培技術を修得されたそうです。

令和2年から露地での栽培を始め、現在では2か所の畑で約400本まで規模を拡大し、遅霜や猿の食害などに悩まされましたが、いよいよ今年からは本格的な収穫が見込まれるそうです。収穫期は、6月下旬頃から9月いっぱい、冷蔵庫で保存すれば2週間ほどは持つそうです。

様々な種類のブルーベリーを栽培されていますが、いずれも甘みと酸味のバランスに優れ、味に関してはとても自信をお持ちでした。

今までは知り合いの料理教室などへの販売が主でしたが、今後はジャム等の加工品販売も考えていきたいとおっしゃっていました。

また、中浦ヒメサユリ森林公園などで直接販売も行っているそうなので、機会がありましたら、無農薬で安心・安全な地元産のブルーベリーを是非とも一度お試しください。



農業への挑戦



田澤樹 三条

地域の担い手

今回は、代官島地区で果樹1・5ha（梨、ぶどう、桃）と水稲2haの複合経営されている田澤樹さん（27歳）を訪ねました。大学で生命化学部応用植物学科に学び就農3年目、将来、地域の一翼を担う青年農業者の一人です。

父の敏幸さんの経営は、今で言うSDGs（循環型農業）そのもの。10年以上前から、東京都練馬区の幼稚園及び小学校の給食から出る残飯で作られた堆肥を使用して果樹、米を栽培され、生産された作物の90%を様々なチャンネルを使い個人販売しておられ、安心・安全、そして顔の見える農業経営



を実践されています。

地道ながら農業の本質をとらえ、将来にわたり少しずつ前に進む経営方針で、2年前には直売所もオープンし、更なる飛躍を求めて勉強中とのこと。そんな父の背中を見て、農業に魅力を感じ、親元就農を決めたと言っているらしいです。

今、果樹の中で一番興味があるのが皮ごと食べられ、香り、甘みと三拍子揃ったぶどうの救世主ともいわれている、消費者人気ナンバーワンシャインマスカットだそうです。

今後は、地域の指導会や研究会等に参加し、栽培管理を習得したいとのこと。そして良きパートナーと出会いたい、何とも頼もしい青年です。

（松下）

小杉弘 栄

脱サラでアスパラガス栽培

アスパラガスは春から夏にかけて出てくる若芽を食べる野菜で、独特の風味があり、天ぷら、サラダ、炒め物など、和洋中どんな料理にも合い、栄養も豊富にあります。



した。2年目は収穫せずに地中の株をじっくり成長させ、3年目の春によく収穫ができ、その後10年ほど収穫が可能です。湿気に弱く、土中のカビが原因で起こる茎枯病予防のため、週一回の土壌消毒を行っています。

初めは夫婦でやっていければと、20aで始めた栽培も、周りの地主さん達が、高齢で自分の畑ができないので使ってもらい、何度も頼

増井由春 下田

オヤマボクチ（雄山火口、ゴボウの葉）ゴンボツパの栽培

オヤマボクチの栽培を始められた動機はなんですか。

長岡技術科学大学退職後の生活基盤を農業・林業と考え、休耕田等の活用を探索していたところ、ゴンボツパ栽培の誘いを受けました。18年前から南蒲原森林組合理事が始めた「南蒲オヤマボクチ生産組合」の生産組合長を引き継いで5年になります。

昨年7名の新規会員が加わり、17名の組織で活動しています。現在、新規会員等とはLINEを使用した質問や連絡等の情報交換研究会を行っています。

下田郷では昔からゴンボツパの笹団子でしたが、山に自生する植物を栽培されるのは大変だったのではないのでしょうか。

現在、下田地区馬場の日瑞川上流の畑で20a栽培しています。栽培方法至って簡単・・・では、

なかったです。野山で自生のオヤマボクチは、現在はほとんど見かけることがないので、種の確保や栽培適地、栽培技術は先輩を手本にし、一歩ずつ前進するしかなく、約12年の栽培経験からやはり自然に近づけた育成が最良のようです。

休耕田を利用する場合、木質チップや広葉樹葉利用の土作りが非常に重要で、自然に従った11月の種蒔き、翌々年の春からの収穫が最盛期となる約2年が栽培期間です。

継続栽培をするにはその3倍の耕作面積が必要になります。

過去に、朝日新聞（新潟版）、日本農業新聞（信越版）の取材を受けていますが、昨今のゴンボツパ笹団子ブームもあって、種、葉供給量、栽培方法等の問い合わせには、葉の不足状況等から返答できずにいます。

今後についてお話しください。

現在、会員は意欲ある南蒲原森林組合



希少な山草植物オヤマボクチの栽培に取り組まれ、環境保全型農業で地域活性化に貢献されている姿が印象的でした。

（山谷）

令和4年度 三条市農業委員会事業計画

農業・農村を取り巻く情勢は、人口減少・超高齢化社会の進展、集落機能や地域経済力の減退、担い手不足・耕作放棄地の増加による農業生産基盤の縮小など、依然として厳しい状況となっている。加えて、新型コロナウイルスの発生による米需要量の減少、近年の激甚化している自然災害等の対応など、所得の拡大への対応が課題となっている。

こうした状況を踏まえ、農地を守り担い手を育成するといった農業委員会の役割がますます重要となっていることを認識するとともに、農業者の代表としての自覚を持ち、公平・公正、開かれた農業委員会業務の執行に当たる。

また、「人・農地プラン」の実行に向けて、市の農政部局を始め関係機関と連携し、担い手への農地集積や新規就農者の確保を図るとともに、これまで以上に農業・農村現場に密着した「目に見える活動」の実践を強化し、ホームページ及び農業委員会だより「向日葵」等により情報発信に努めつつ、関係団体と連携し、農業生産力の増進及び農業経営の合理化を図り、農業者の信頼と期待に応えていくことを基本方針として活動

I 基本方針

する。

II 事業計画

1 会議関係

- (1) 定例総会
- (2) 臨時総会
- (3) 調査部会
- (4) 農政対策部会
- (5) 特別調査部会
- (6) 作況調査検討会
- (7) 和解の仲介委員会

2 研修会・講演会の開催

- (1) 農政・消費問題等の講演会を開催
- (2) 委員・推進委員研修会を実施

3 視察研修関係

- (1) 農業委員及び最適化推進委員研修
- (2) 1日研修

4 的確な農地行政と構造政策の推進

農地転用など、一層の慎重審査を行う。また、農業生産条件を整備し、生産性の高い農業経営の実現や農用地を有効利用するため、適正な農地行政を推進し、農用地の多面的な利活用と併せて優良農地

6

農地銀行活動事業の充実
経営規模拡大を志向する意

5 農政対策の推進

- (1) 農業者の立場に立った建議、意見公表、要望活動の実施
- (2) 農林関係予算の確保対策
- (3) 担い手（法人）確保・育成に向けた取組
- (4) 環境にやさしい農業と安全・安心な農業の振興
- (5) 地産地消活動及び食農教育の推進
- (6) 農産物の付加価値向上に関する取組

9 「全国農業新聞」等の普及拡大

系統組織が発行する「全国農業新聞」及び「全国農業図書」の普及拡大に努め、農業者への的確な情報提供活動を推進する。

7 啓発活動の充実

農業委員会だより編集強化など啓発活動の充実に努める。

8 農業者年金業務の推進

- 農業者年金業務を適正かつ円滑に推進するため、加入推進部長を中心として、次の事業を行う。
- (1) 新農業者年金制度の普及と定着
 - (2) 新農業者年金加入者の拡大及び目標の達成
 - (3) 年金相談活動の充実
 - (4) 新規受給者を対象とした研修会の開催

「みどりの食料システム戦略」に言

第三調査部会長 田邊 稔



昨年（令和3年）5月に「みどりの食料システム戦略」を農林水産省が策定

しました。

地球温暖化による自然災害の大規模化、農業生産者の減少、後継者不足による高齢化、食の多様化と少子高齢化に伴い主食の米消費減少等による食料自給率は40%を割り込み、化石燃料、化学肥料の原料のほとんどを海外からの輸入に頼っている状態です。

「みどりの食料システム戦略」ではこのような現状を踏まえて、生命を支える「食」と、安心して暮らせる「環境」を未来の子供たちに継承していくために、生産者はもとより、調達、加工・流通、消費それぞれの分野での5年後、10年後、20年後、30年後の具体的な工程表を決めて、時間軸をもって行動変容を促していくとされている戦略です。

私たち農業生産者の立場で、30年後の2050年の目標では、温室効果ガスの低減、化学農薬の低減、化



学肥料の低減、有機農業の拡大等を数値化して示しています。
私が注目しているのは有機農業の取組面積割合を25%（100万ha）に設定していることです。
近年では徐々に増加はしていますが現状は0・5%と、目標達成には疑問を感じます。
私は4haの水田で有機農業を実施しており、鴨除草による有機農業は27年目になります。
30年後に私の周りの農地が「みどりの食料システム戦略」の目標達成にたどり着いた風景を見たいと思っていますが、年齢的にはたして……。

農地パトロール(農地利用状況調査)を実施中です!

農業委員会による農地パトロール（農地利用状況調査）を実施しています。農地の利用促進につなげるための情報収集を目的に、7月から管内の全農地を対象に、遊休農地はないか（耕作放棄をして農地が荒れていないか）、農地の違反転用はないか、不法投棄がないか等の調査を実施しています。

遊休農地が発生すると……





農業者年金の特徴とメリット

- メリット 1** 農業者なら広く加入できます
- メリット 2** 少子高齢時代に強い「積立方式・確定拠出型」の年金です
- メリット 3** 通常加入の場合、保険料の額は自由に決められます
- メリット 4** 終身年金。80歳前に亡くなられても死亡一時金があります
- メリット 5** 税制面で大きな優遇措置があります
- メリット 6** 一定の要件を満たす農業者には保険料の国庫補助（政策支援加入）があります



農業者の方なら広く加入できます



農業経営者



自営業との兼業農家



配偶者



後継者とその配偶者



農業従事者
農家のパートさん



農地の権利名義を
持たない畜産農業者・
施設園芸等農業者など

詳しくは、三条市農業委員会事務局までお問い合わせください。
電話：0256-34-5635（直通）

視察研修

今回、2年ぶりに先進地視察研修が実施され、7月7日・8日の一泊二日で佐渡市に行ってきました。

1日目はアミューズメント佐渡を会場に佐渡市農業委員会との意見交換会を行い、最適化活動の目標設定、下限面積の設定等についてそれぞれ現状説明を受けて意見交換が行われるなかで、佐渡では後継者（担い手）不足というよりゼロに等しいという発言があり、三条市においてはゼロではないが同様な課題であり、農地の集積、集約と併せて私たち委員に課せられた大きな課題であると感じました。

2日目は水稲・おけさ柿・いちご栽培等で45haを経営されている新穂の(有)齋藤農園の齋藤真一郎代表から現地のほ場で水稲



の自然栽培について話を聞かせていただき、トキと共生するために環境に特化した米作りを拡大しているということでした。また、経営面や栽培技術において基本となるものは、安心の付加価値をつける

る栽培とことです。労働力の確保や規模拡大等について問題点・課題が山積みという話をお聞きして、抱えている問題点や課題は共通していると感じました。

持続可能な経営を目指し、農業の削減など何らかの形で食の安心・安全を届けられる農業を目指していきたいと思いました。

栗原一郎

申請書の締切日は毎月10日です

農地の売買や貸借、転用の許可申請などの締め切りは、毎月10日（10日が休日の場合は直前の市役所開庁日）となります。

農地の売買、貸借などの締め切り日

9月9日(金) 10月7日(金) 11月10日(木) 12月9日(金)
1月10日(火) 2月10日(金) 3月10日(金)

総会開催日

9月30日(金) 10月31日(月) 11月30日(水) 12月27日(火)
1月31日(火) 2月28日(火) 3月28日(火)



全国農業新聞を購読してみませんか

全国農業新聞は農業者の公的代表機関である農業委員会系統組織が発行する農業総合専門紙です。「週刊」の時間をいかし、情報がわかりやすいよう解説的にまとめています。また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の県版・地方版の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。



発行日 毎週金曜日（月4回）
購読料 月額700円（送料・税込）
申込先 農業委員会事務局
電話：34-5635
（毎月15日までの申込みで、翌月から送付いたします。）



編集後記

私は農業委員となり4年になりますが、ずっと「向日葵」の編集委員を務めております。編集委員になり、「向日葵」の編集はとても大変な仕事で、半年に一度の発行ですが、最初は記事探しから、聞き取りそして原稿書き、各担当者皆様のご苦労がしのべれます。ですから、皆様もじっくりお読みいただけるとうれしく思います。

（佐藤）

委員長 島影 正幸 副委員長 馬場 良子 佐藤 一富
委員 山倉 広 山屋 和徳 小池 秀一 高山 弘則 松下 正樹 山谷 秀昭

三条市LINE公式アカウント

友だち募集中

@sanjo-city

安全情報や暮らしの情報を配信中！

